

GEKKAN ORIMOTO

月刊 織本

2月号

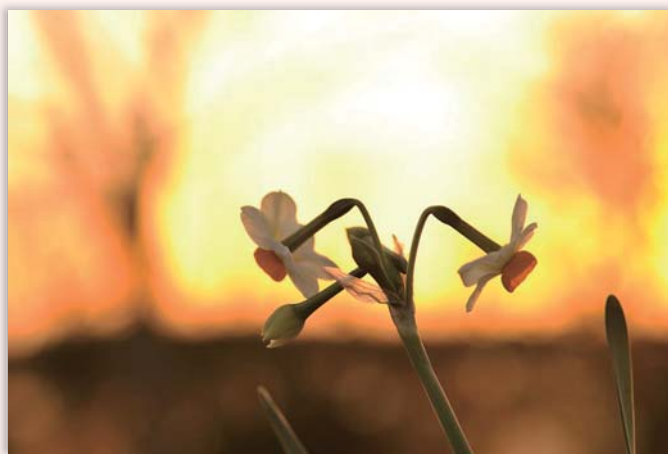
2011年2月1日 Vol.198

発行 医療法人財団 織本病院

印刷 〒204-0002 東京都清瀬市旭が丘 1-261

Tel 042-491-2121 URL <http://www.orimoto.or.jp/>

発行人 高木由利



織本病院の理念

理事長・院長 高木 由利



昨年の夏が暑かったので今年の冬は寒いと聞いていましたが、本当に毎日寒い日が続きます。でも、その厳寒の地で可憐な日本水仙が生き生きと咲き乱れる光景を見ていると、毎日言い訳や不平不満を心に抱いて生きているのは人間だけかと恥ずかしくなってしまいます。

* * *

先日、久し振りに外来受診された方が織本病院は来るたびに温かい病院になっていくので、ここに来るといつも癒されるとおっしゃって下さいました。この励ましのお言葉を頂いて、私はこの原稿を書くことにしたのです。

織本病院の理念は、

- ・患者様に満足して頂ける医療を実践する
- ・互いにいたわり合う職場を創る
- ・患者様と職員、双方が癒される病院にする

とても分かりやすい平易な言葉で表現された理念です。しかし、私はこの理念を作るのに何年もの時を必要としました。病院の理念なので立派そうな表現がふさわしいのかと思いついてみると、私の想いとは微妙

にズれてしまうのでした。

不思議なもので同じことを言っているのに、自分の精神状態と心の成長と共に表現方法が変化していくのです。そして色々悩んだあげく、聖書を読み、神様にお祈りしながらこの理念ができました。

この平易な表現が私自身の医師としての告白でもあるのです。私を含めすべての職員は、この理念のもとに心を一つにして仕事をする必要があります。理念の良し悪しを論ずる必要もありません。もし、このことが自分の想いと異なり受け入れ従うことができない場合は当院を去るのが正しい判断であると私は考えているからです。

理念とはトップのはっきりした意志表示であり、職員1人1人の目標、そして仕事の方向性を示す不動のものなのです。仕事の中で様々な悩みが出て自分はどういう方向に向いたらよいか迷った時は理念に立ち返るのではないのでしょうか。

私達人間は皆“さまよえる子羊”です。理念は羊飼いの杖のようなものであり、その杖の示す方向に歩んでいけばまちがいはないと私は確信しています。

今日もまた、私は理念を反復し、1日の自分の仕事に間違いがないかを確認しました。

ブランドと仕事 ③

専務理事・事務部長 箕輪 比呂志



ここ数年、特に私が子供の頃に比べて気候が変化してきていると感じます。夏は酷暑となり、近年は世界的にも暖冬傾向にありましたが、今年の冬は例年よりもとても寒い日が続き、北陸では大雪となっています。そして異常気象の報道も多くなっています。南半球の一部は洪水による大きな被害を受け、また昨年12月にはイギリスのヒースロー空港やエジンバラ空港が大雪の為に閉鎖され、数千人の旅行者が足止めされました。このイギリスの空港閉鎖によって足止めされた方々の中に当院の人間ドックを予約されていた方がいました。このことから様々な世界の気候が私にとって、とても身近に感じられました。

* * *

今月号が「ブランドと仕事」をテーマにしてから3話目となります。これまで「病院の理念」に基づいた「織本病院らしさ創り」について考えてきました。そして、これらを実践するための医師と医療従事者の学びの重要性についても触れました。ここからは、前号のお約束通りに私のエピソードも入れて「ブランドと仕事」について考えてみたいと思います。

私は、10年程前になりますが自分では気が付か

ない間に小腸に3cm程の腫瘍ができており、この腫瘍部分から突然に何千ccか下血して出血性ショックから呼吸停止となり、救急車で搬送された経験があります。何とか蘇生されて運ばれたある救急病院がお盆休みの時期だった為に消化器系の



専門医が不在であり、また病室での撮影が可能なレントゲンも壊れている状態でした。内視鏡の機械も不具合があったようですが、業者がお盆休みで修理ができないので使えないとのことでした。意識は戻りましたが血圧が上で60程度しかなく、立ち上がることもできずに貧血状態でした。何とか輸血の同意書にサインはできましたが、少なからず医療の知識がありましたので危険な状態だと自分では感じていました。この時点では診断がされておらず出血部位が特定できていませんでした。従って再度の出血となれば危機感が増すばかりです。最悪の条件が重なりましたが、幸いにもかかりつけの病院がありましたので先生同士に連絡を取り合ってもらって、救急車で転院となり手早く全ての検査が行われました。その後、出血部位の特定もされ緊急開腹手術によって腫瘍部分を摘出して今日を迎えることができたのです。

この経験から、患者の立場として最初に搬送された病院に信頼感を失いました。看護師の方からは力をもらい、先生からは励まされましたが医療機器全体に問題があったからです。医療はトータルです。前号でも書きましたが一人の言動で信頼を失い、一人の対応が全体像として顧客から捉えられることがあります。日々の医療機器の点検・保守、患者様への配慮、診療体制、救急対応など様々な視点から当院の理念にある「患者様に満足して頂ける医療を実践する」ためには、生命関連事業である医療機関に盲点があってはならないと思います。さて、接遇面も加味して具体的な話に置き換えてみましょう。「笑顔で挨拶が素敵な看護師さんの注射が下手でとても痛い」という投書があったとしましょう。接遇は、大切ですが技術や技能が無く、笑顔や挨拶が形式だけであれば、患者さんには伝わりません。仕事ができる人は自信をもって物事にあたることが出来ます。すなわち、「知識があり技術がある。そして、自信もあり、人に優しい」ことが本来の接遇の原点だと思います。このような接遇の原点が定着す

ることで病院の評価が上がり、織本病院ブランドを高めることができると考えます。

転送された病院で入院している際に、術後の回復期であったことも手伝いましたが、入院生活に退屈さを感じていました。そんな折、院内で医師を含めた医療従事者がギター、フルート、ヴァイオリン、ピアノ等を演奏する会が行われ、沢山の入院患者の方々が癒されていました。当院でも演奏会等のイベントを定期的に行っていますが私自身が入院中に楽しい時間を過ごし癒された経験をしましたので、当院の職員の皆さんにも医療そのものではありませんが、癒しにつながる空間創りを行うための提案や織本病院らしさを創り出

すための院内行事への協力を引き続きしてほしいと願っています。

これまで、当院に関わる多くの企業の方々とお会いしてきました。その方々の生の声は、「受付での丁寧な対応に始まり、階段、廊下でも挨拶をして頂けて気持ち明るくなりました。」「どこの誰かも分からない部外者に対しても分け隔ての無い対応が嬉しかった。」等でした。

さて、顧客の視点からの織本病院ブランドの具体的な姿が見えてきました。引き続き、当院を舞台にして「ブランド創り」について考えていきたいと思いを。

THE Vol.53
病理診断

『祈りの手』

聖マリアンナ医科大学 診断病理学教室教授
高木 正之 先生



デューラーという画家が描いた“祈りの手”という作品には、有名な逸話があります。デューラーと友人ハンスは、ともに画家を志していました。2人は家が貧しいので働かなくては勉強ができません。そこでハンスが「僕が働いて、君を支える。君の勉強が終わったら、今度は僕を支えてくれ。」ハンスは一生懸命、炭坑で働いてお金を送りました。そして、デューラーは立派な画家になって帰ってきました。そして言いました。「今度は、君の番だ。僕が働いて仕送りするから。」と言いました。しかし、ハンスは炭坑での重労働で指が曲がったままで、手が震えて繊細な絵を画けなくなっていました。援助を受けて画家になったデューラーは悲しみました。ある夜、ハンスの部屋を覗くと、彼は静かに祈りを捧げていました。「デューラーは私の事で傷つき、苦しんでいます。自分を責めています。神さま、どうかデューラーが苦しむことはありませんように。そして、私が果たせなかった夢までも、彼が叶えてくれますように。あなたのお守りと祝福がデューラーとともにありますように。」彼は画家になれなかった自分を悔やんでいると思いましたが、自分のことではなく、僕のことを一生懸命祈ってくれている。その祈りを聞いて感動したデューラーは、友人のごつごつした手を“祈りの手”として画いたのです。

私自身も、今まで多くの人に祈られ、助けられて自分の夢が叶えられてきたと思います。それなのに、自分の力だけで生きてきたように考えてしまうことがあります。これからの残された人生は、ハンスのように自分の為だけではなく、友のために自分を捧げることを喜びとするような生き方ができればと思います。



医師就任・退職のお知らせ

▶ 退職

常勤：岡田仁史（内科・内視鏡）平成23年1月末
 非常勤：長谷川瑞江（内科・睡眠時無呼吸）平成23年3月末

▶ 一時休診

非常勤：勝又有紀（内科・透析センター）平成23年3月より

▶ 就任

非常勤：まるやま しょうじ**丸山正二**（専門：消化器科）
 平成23年2月より
 金曜日午前 内視鏡（上下部）担当

外来診療体制表 ※第1、2土曜日の午後は休診

	月		火		水		木		金		土	
	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM
内科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
外科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
整形外科					○	○						
脳神経外科			○ ※1			○			○ ※1		○ ※2	○ ※3
腎臓・肛門科			○								○ ※4	
消化器科		○						○				
循環器科	○							○		○	○	
泌尿器科				○								
皮膚科		○										
専門外来	腎不全外来				○				○			
	乳腺外来	○	○									
	睡眠時無呼吸外来									○		○
	カウンセリング				○							

○ 完全予約制
 ○ 予約可能（予約のない方も受付可能ですが予約された方が優先となります）

午前受付 8:30～11:30（診療開始 9:00）
 午後受付 13:30～16:30（診療開始 14:00）

※1 火曜は10:00・金曜は9:30から診療開始
 ※2 第2土曜日は休診
 ※3 15:00まで
 ※4 第4土曜日のみ診療

第119回 腎疾患ゼミナール

『あなたと私と腎不全 ①』 腎臓内科：高木由利

栄養科からのワンポイントアドバイス

『でんぷん薄力粉を使って“揚げラビオリ”を作ろう!!』

どなたでもご参加頂けます。皆様ぜひお越しください。

日時：2011年2月24日（木）
 午後1:00～
 会場：オリモトホール（当院4F）
 参加費：無料

管理栄養士：重野 隆幸

